



神を仰ぎ、人に仕う

# Chapel News

2015年4月

No.1

## 「信頼—歩み寄る勇氣—」

アメリカの著名な政治学者であり日系 3 世でもあるフランシス・フクヤマ氏は、21 世紀を迎えるに先立ち、『信頼(Trust)』(邦訳『「信」無くば立たず』三笠書房、1996)という本を出した。それは、信頼の確立こそが、経済のみならず国家の存続にとって重要な要素であり、その成否に世界の将来がかかっていることを論じたものであるが、2015 年を迎えた今、改めて世界中が「信頼」の持つ重要性を認識させられているのではなからうか。

特に最近の中東や世界各地で展開されている過激な暴力の応酬を見ていると、第二次世界大戦中の惨劇を見る思いがする。戦後、世界中がその惨劇を深く反省し、平和に向けて力強い歩みが始められたが、それから 70 年経つ今、そうした努力をあざ笑うかのような暴力が多くの人々に襲いかかっている。また世界の各地で右傾化が見られ、新たな人種・民族問題が生じている。そして、日本社会もそれと無関係ではない。

このような時代においては、平和への糸口を見出すことすら困難である。しかし、希望が見えないわけではない。その一つは、2 年前、12 億人を擁するローマ・カトリック教会の頂点に立った教皇フランシスコの出現である。この教皇は、自らを「フランシスコ」と名乗った。これは、13 世紀にイタリアに生き、フランシスコ会という修道会を創始したアジジのフランシスコの名から取ったものである。アジジのフランシスコは徹底した清貧をとおしてキリストと一体となることを目指した人で、貧しい人や弱者や社会から排除されている人たちに目を留め、そうした人たちと共に生きた人である。教皇フランシスコは、そうしたフランシスコの精神に倣い、社会の中で小さくされた人たちの声に耳を傾け、共に生きることをとおして世界平和を目指そうとしている。

今、こうした生き方が必要ではなからうか。さまざまな対立と暴力の背後には深い絶望の闇が見え隠れする。そこに光を当て、そこにある声に耳を傾けることがなければ、本当の問題解決には至らないであろう。さまざまな暴力の背後にある声に耳を傾け、その叫びに心を開き、歩み寄る勇氣を持つことが、信頼を築くためにも大切ではなからうか。

(大学・政治経済学部チャプレン 菊地 順)

### 2015 年度年間聖句

知恵を得ることは金にまさり／分別を得ることは銀よりも望ましい。

箴言 16 章 16 節

### 4 月月間聖句

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。 (黄金律)  
マタイによる福音書 7 章 12 節

### 行事・集会のご案内

#### ■イースター礼拝

日時／4 月 15 日(水)14 時 40 分～15 時 10 分 場所／チャペル

◇ イースター(復活祭)は、十字架につけられて死なれた  
主イエス・キリストが、3 日目に復活されたことを記念する祝祭です。  
今年のイースターは 4 月 5 日です。



### 聖学院教会祈禱会

■毎週木曜日 18 時 40 分～19 時 40 分、緑聖ホールC室にて行っております。  
どなたでも自由にご参加ください。

・4 月 9 日(木) エゼキエル書 46 章 濱田辰雄小学校・幼稚園チャプレン  
・4 月 16 日(木) エゼキエル書 47 章 東野尚志牧師

### 全学礼拝期間について

2015 年度春学期の全学礼拝は、下記日程で行っています。毎週火曜日から金曜日、14 時 40 分から 15 時 10 分です。どなたでも自由にご参加ください。

春学期／4 月 8 日(水)～7 月 17 日(金)

### 主の祈り

天にましますわれらの父よ  
ねがわくはみ名をあがめさせたまえ  
み国をきたらせたまえ  
みこころの天になるごとく  
地にもなさせたまえ  
我らの日用の糧を今日も与えたまえ  
我らに罪をおかすものを我らがゆるすごとく  
我らの罪をもゆるしたまえ  
我らをこころみにあわせず 悪より救い出したまえ  
国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり



アーメン

4月8日(水)

奨励者 阿久戸 光晴  
(理事長・院長)  
司会者 山口 博  
奏楽者 大井 恵子  
◆ ◆ ◆  
前 奏  
讃美歌 452 番 1、2 節  
聖 書 箴言 29 章 18 節  
(旧約 P.1029)  
祈 禱  
奨 励 「ともしびをかかげて」  
祈 禱  
讃美歌 452 番 3 節  
主の祈り  
後 奏

4月9日(木)

奨励者 山口 博  
(副院長・キリスト教センター所長・  
児童学科、こども心理学科担当チャプレン)  
司会者 阿部 洋治  
奏楽者 今村 優子  
◆ ◆ ◆  
前 奏  
讃美歌 298 番 1、2 節  
聖 書 コヘレトの言葉  
3 章 1~11 節(旧約 P.1036)  
祈 禱  
奨 励 「点と線」  
祈 禱  
讃美歌 298 番 3 節  
主の祈り  
後 奏

4月14日(火)

奨励者 牛津 信忠  
(人間福祉学部 人間福祉学研究科長)  
司会者 菊地 順  
奏楽者 渡辺 善忠  
◆ ◆ ◆  
前 奏  
讃美歌 312 番 1、2 節  
聖 書 詩編 105 編 1~4 節  
(旧約 P.943)  
祈 禱  
奨 励 「主への感謝に満たされて」  
祈 禱  
讃美歌 312 番 3 節  
主の祈り  
後 奏

4月15日(水)

— イースター礼拝 —  
奨励者 柳田 洋夫  
(日本文化学科担当チャプレン)  
司会者 阿部 洋治  
奏楽者 ングワー 路津子  
◆ ◆ ◆  
前 奏  
讃美歌 147 番 1、2 節  
聖 書 ペトロの手紙一  
1 章 3~5 節(新約 P.428)  
祈 禱  
奨 励 「死を超えたいのちと希望」  
祈 禱  
讃美歌 147 番 3、4 節  
主の祈り  
後 奏



4月10日(金)

奨励者 清水 正之  
(学長・人文学部長・  
アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科長)  
司会者 柳田 洋夫  
奏楽者 清水 貴子  
◆ ◆ ◆  
前 奏  
讃美歌 II 167 番 1、2、3 節  
聖 書 コリントの信徒への手紙一  
13 章 3~7 節(新約 P.317)  
祈 禱  
奨 励 「愛のわざ」  
祈 禱  
讃美歌 II 167 番 4、5 節  
主の祈り  
後 奏

イースターのシンボル

**イースター・エッグ** イースターには、よみがえる新しいいのち、永遠の命のシンボルとしてイースター・エッグが交換されます。  
**うさぎ**は、春になると穴から出てのびのびと跳ね回ります。そのように死の深い淵・死の闇といった穴からいのちへと躍動する喜びの象徴として、しばしばうさぎが用いられます。  
**パンと魚**の図形は、復活の主がガリラヤ湖畔に現れ、弟子たちとともに食事をされたことを示し、主が約束してくださった永遠の命と復活の主との交わりを意味します。



4月16日(木)

奨励者 菊地 順  
(大学・政治経済学部チャプレン)  
司会者 山口 博  
奏楽者 相川 徳孝  
◆ ◆ ◆  
前 奏  
讃美歌 501 番 1、2 節  
聖 書 ローマの信徒への手紙  
10 章 14~17 節(新約 P.288)  
祈 禱  
奨 励 「聞く」  
祈 禱  
讃美歌 501 番 3 節  
主の祈り  
後 奏

4月17日(金)

奨励者 清水 均  
(日本文化学科長)  
司会者 柳田 洋夫  
奏楽者 松本 周  
◆ ◆ ◆  
前 奏  
讃美歌 453 番 1、2 節  
聖 書 列王記上  
3 章 7~10 節(旧約 P.531)  
祈 禱  
奨 励 「『ソロモンの偽証』」  
祈 禱  
讃美歌 453 番 3 節  
主の祈り  
後 奏